

様式 1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	2-(2)-ア	子ども・子育て支援の充実	施 策	②乳幼児の健康の保持・増進
			施策の小項目名	○子どもの疾病の早期発見と早期治療の促進等
主な取組	在宅療養を支える環境づくり		対応する成果指標	乳児健康診査の受診率
施策の方向	・子どもの疾病の早期発見と早期治療を促進するための医療費助成を行うとともに、安定した在宅療養環境づくりや子どものこころの問題に対する支援に取り組めます。			

1 取組の概要（Plan）

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
在宅で療養する小児慢性特定疾病児(人工呼吸器装着患者)は停電時における安全な電源確保が必要となる。そのため、予備電源等の物品購入にかかる必要経費を在宅療養患者を支援するNPO法人へ補助し、同法人から対象者へ無償貸与することで安定した療養生活の確保を図る。	県	在宅人工呼吸器装着患者に対する災害時の電源確保		
		災害時に備えた非常用電源の貸与補助件数(累計)		
		10件	10件(20件)	10件(30件)
担当部課【連絡先】	保健医療介護部地域保健課		【 098-866-2215 】	関連URL
				—

様式1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 在宅を支える環境づくり事業				予算事業名 在宅療養を支える環境づくり事業		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額	R8年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	補助	4,449	4,996	県単等	補助	4,689
令和7年度活動内容				令和8年度活動計画		
前年度同様に貸与補助事業を行う。 人工呼吸器用外部バッテリー15台および自家発電機15台を新たに貸与した。				前年度同様に貸与補助事業を行う。 人工呼吸器用外部バッテリー15台および自家発電機15台を新たに貸与予定。		

活動指標名	災害時に備えた非常用電源の貸与補助件数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	—	—	16件	10件	100.0%	順調	令和7年度は計16人の在宅療養児に対し、人工呼吸器用外部バッテリーまたは自家発電機の貸与補助を行った。これにより、在宅で人工呼吸器を装着する児童等の停電時における安全確保を図ることができた。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

バッテリーの貸与件数について、目標値10件に対し実績16件と上回ったことから順調とした。
--

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案	反映状況
○事業の実施にあたっては、補助事業者と対象機器の検証を行い、性能・価格のバランスを重視した機種を選定することで貸与件数を増やし、予算の範囲でより効率的に事業が実施できるよう取り組む。	補助事業者と対象機器の検証を行い機種を選定し、効率的に事業が実施できるよう取り組みを行った。

様式 1 （主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化（外部環境の変化）	機種によっては海外からの輸入になるものもあるが、近頃の国際情勢から納品が遅れるまたは購入ができなくなったと補助事業者からの相談もあった。	⑥ 変化に対応した取組の改善	機種の見直しなどを含め安定した供給ができるよう補助事業者と連携を図る。

様式 1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	2-(2)-ア	子ども・子育て支援の充実	施 策	②乳幼児の健康の保持・増進
			施策の小項目名	〇こども医療でんわ相談の実施
主な取組	小児救急電話相談事業（#8000）		対応する成果指標	乳児健康診査の受診率
施策の方向	・看護師・医師による子どもの急な病気症状や対応方法への助言が得られる「こども医療でんわ相談」を実施し、救急医療機関の適切な受診と医療従事者の負担軽減を図りつつ、きめ細かな子育て支援の充実に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R7	R8	R9
小児救急の適正受診と小児救急医療機関の負担軽減を図るため、小児患者の保護者向けの電話相談窓口として、小児救急電話相談事業(#8000)を実施。	県	県内全域を対象とする小児保護者向け電話相談受付		
		小児救急電話相談件数(累計)		
		24,000件	25,000件(49,000件)	26,000件(75,000件)
担当部課【連絡先】	保健医療介護部医療政策課		【 098-866-2111 】	関連URL
				—

様式 1（主な取組）

2 取組の状況（Do）

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 小児救急電話相談事業				予算事業名 小児救急電話相談事業		
主な財源	実施方法	R6年度 決算額	R7年度 決算見込額	R8年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託	33,457	31,163	県単等	委託	35,241
令和7年度活動内容				令和8年度活動計画		
小児の急な病気への対応方法等に対する相談窓口として、看護師や医師が対応（①平日は19時～翌朝8時、②土日・祝日・年末年始は24時間）。				小児の急な病気への対応方法等に対する相談窓口として、看護師や医師が対応（①平日は19時～翌朝8時、②土日・祝日・年末年始は24時間）。		

活動指標名	小児救急電話相談件数（累計）		R7年度			進捗状況	活動概要
	R5年度	R6年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	—	—	25,113件	24,000件	100.0%	順調	小児の急な病気への対応方法等に対する相談窓口として、看護師および医師が小児の保護者からの電話を受け付けている（①平日は19時～翌朝8時、②土日・祝日・年末年始は24時間）。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

令和7年度の活動量の目標相談件数を24,000件としていたことに対して、実績値は25,113件となっているため。□

(2) これまでの改善案の反映状況

令和7年度の取組改善案	反映状況
○小児救急の適正受診について、HP等を通して県民への＃8000の周知していく。	○HPに掲載し、関係機関へポスター等を配布した。

様式 1（主な取組）

3 取組の検証（Check）		4 取組の改善案（Action）	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他内部要因 （改善余地の検証等）	HP等で周知を行った結果、相談件数は増加したものの、依然として小児救急のひっ迫状態は継続していることから、継続して＃8000を周知する必要がある。□	⑤ 情報発信等の強化・改善	小児救急の適正受診について、HP以外の広報ツールも活用し、＃8000の周知を強化する。 また、令和6年度に開始した＃8000LINEアカウントの周知にも取り組む。□